

Ⅱ 早島町における栄養教諭を 中核とした食育推進事業の取組

1 早島町の概要

本町は、県内市町村最小面積で人口密度が県内一高い、岡山市と倉敷市に隣接するベッドタウンである。また、交通の要衝地である利点を生かした物流拠点として発展を遂げている。町内には、幼稚園 1 園(204 名)、小学校 1 校 (745 名)、中学校 1 校 (339 名)があり、幼・小・中の教育目標を「縦軸」、成長段階に応じた取り組みを「横軸」にした一貫教育を行っている。この一貫教育は、連続性や統一性を意識した学校教育方針を立て、12 年間で達成する目標を「子どもたちの成長に応じた学力と人格を身につけること」としている。

このことを踏まえ、小・中学校には、調理室と食堂があり、小学校に栄養教諭 1 名、中学校に主査栄養士 1 名、調理員 10 名を配置して調理する人の顔が見え、安心して食べることができる給食を提供している。

町民は学校教育への関心が高く、ボランティアとして子どもたちの成長を支えようとする意欲をもち、学校運営にも協力的である。また、給食を誇りに思い次世代につなげたい財産であると感じている人が多い。

2 事業取組の趣旨

本町では、以前から食に関する指導の充実に取り組んできたが、本年度、文部科学省委託事業「栄養教諭を中核とした食育推進事業」の指定を受けることとなった。

食に関する指導を充実させ、健康な体と豊かな人間性を育むために学校、家庭、地域が一体となった食に関する指導の充実という主題を設定して取り組むことにした。

社会環境の変化による子どもたちの食生活の乱れや肥満や痩身傾向等の近年の大きな問題は本町においても例外ではない。そこで、子どもたちに食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせるために、学校においても食育を推進することが求められている。成長期にある子どもたちにとって、食は健康な体をつくるために重要であると同時に、将来の食生活の形成に大きな影響を及ぼすものである。また、食は生きるための基本であり「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつを通して、生命を尊重する心や感謝の気持ちを養い、家族や友だちとの「共食」により人とのつながりを深めることができる。食育は、知育、徳育及び体育の基礎となるものであり、心身の成長及び人格の形成や豊かな人間性を育む基礎であると言われている。しかし、食に関する指導の充実は、学校の指導だけでは効果を上げにくい。そこで、学校を取り巻く環境の利点を生かし、早島小学校を実践中心校とした。

早島小学校では、教育目標を「自ら学び、心豊かですこやかな早島っ子を育てる」とし、めざす児童像「すすんで学ぶ子」「やさしい子」「元気な子」を掲げ、豊かな人格と確かな学力をそなえ、健やかな心と体の調和のとれた児童の育成をめざしている。そこで、本校の教育目標を具現化するために、食に関する指導の充実を図る。

さらに、幼稚園と中学校が連携した指導に以前から取り組んでいる。食に関する指導についても学校を取り巻く環境の利点を生かし、地域、家庭と一体となり、幼稚園・小学校・中学校が連携した指導体制の確立に努めたいと考えた。

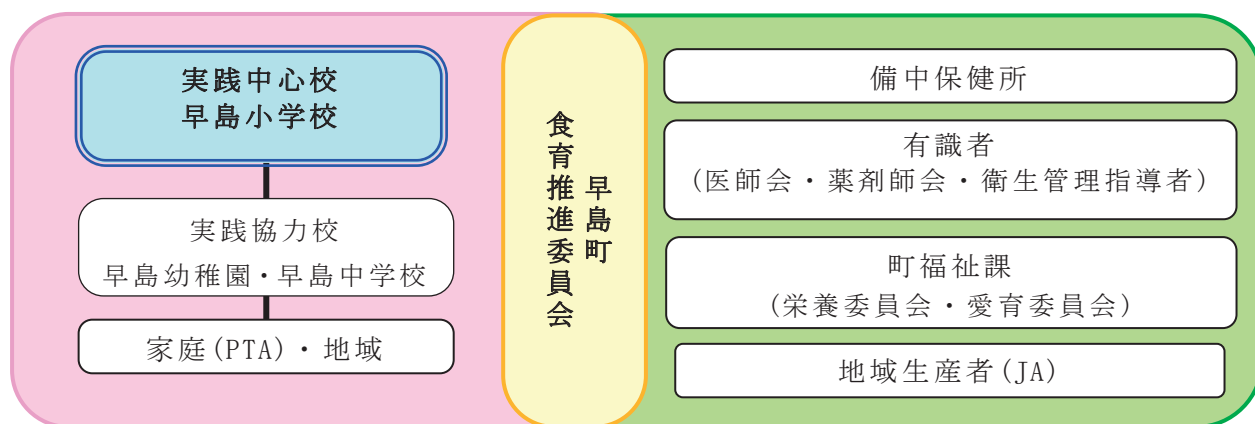
研究を進めるにあたって、次のとおりテーマを決め取組を行いたいと考えた。

3 取組の具体的内容

(1) 事業テーマと内容

テーマ 1	幼・小・中で連携した食に関する指導の実践と学校給食の充実に向けた取組
内容・計画	<p>○ 幼小中で連携した食に関する指導を行うための組織づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食育推進委員会を年間 5 回開催する。 ・ 全体会・・・食に関する指導内容の検討及び全体計画等の作成と評価を行う。 ・ 献立作成部会・・・米飯を中心とした献立内容の検討。 ・ 物資購入部会・・・業者の選定及び安心して安全な物資の選定。 ・ 衛生管理部会・・・給食施設並びに衛生管理に関する内容について検討。 <p>○ 献立の工夫と衛生管理及び調理技術の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調理従事者を対象とした衛生管理研修会及び調理技術講習会を開催し、魅力ある学校給食の提供に努める。
テーマ 2	健やかな心と体、人間関係を育む食に関する指導の充実
内容・計画	<p>○ 健やかな心と体、人間関係を育む食に関する指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科・領域における、食に関する年間指導計画を作成する。 ・ 各教科・領域の特性に応じた、食に関する指導のあり方を研究する。 ・ 校内体制を整え、全職員が食に関する授業実践を行う。 ・ 食に関心をもつ児童の割合を 90%以上にする。 <p>○ 第 5 学年を中心とする、公開授業研究会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 月 30 日（水）に授業公開し、食に関する様々な課題を追求する。
テーマ 3	I C T を活用した家庭・地域への啓発及び連携した食に関する指導の取組
内容・計画	<p>○ 家庭・地域への啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ、食育だより等で食に関する情報を発信、意識向上を図る。 <p>○ 食に関する講演会・給食試食会・料理教室・学校保健委員会等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者や地域の方を対象に、学校給食や食習慣・生活習慣、食物アレルギー等について正しい理解と認識に導くための場を設け、望ましい生活習慣の形成を図る。 <p>○ 地域人材活用についての取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で活躍する栄養委員等と連携して、レシピ集の作成と配布等を行う。

(2) 事業推進体制



(3) 食育推進委員名簿

No	氏名	所属及び役職	No	氏名	所属及び役職
1	木村 丹	早島小学校医	18	吉岡 裕子	早島町立早島中学校 養護教諭
2	兵藤 道子	早島小学校薬剤師	19	大賀 美幸	早島町立早島幼稚園 教諭
3	塩飽 朱実	備中保健所保健課 地域保健班副参事	20	小野 哲也	早島町立早島小学校 P T A代表
4	竹ノ谷陽子	文部科学省 学校衛生管理指導者	21	梶川 千夏	早島町立早島中学校 P T A代表
5	太田 誠	岡山西農業協同組合 早島町支店主任	22	浅沼 一徳	早島町立早島幼稚園 P T A代表
6	大浦 能子	早島町愛育委員会会長	23	中川真寿男	早島町福祉課長
7	磯山 千晴	早島町栄養委員会会長	24	三宅 直子	早島町福祉課保健師
8	横山 文朗	早島町立早島小学校長	25	屋敷 欣一	早島町教育委員会 教育長
9	河野 弘道	早島町立早島中学校長	26	藤井 進	早島町教育委員会 学校教育課長
10	半田 民子	早島町立早島幼稚園長	27	光畑 和美	早島町立早島小学校 栄養教諭
11	吉川 達也	早島町立早島小学校 主幹教諭	28	高田 直子	早島町立早島中学校 主査栄養士
12	平田 治	早島町立早島小学校 研究主任	29	福本 和宏	岡山県教育庁 保健体育課副課長
13	岡田まり子	早島町立早島小学校 保健主事	30	岩井 博行	岡山県教育庁 保健体育課総括副参事
14	岩城加代子	早島町立早島小学校 給食主任	31	中桐 規代	岡山県教育庁 保健体育課指導主事
15	山本 真子	早島町立早島小学校 養護教諭	32	原 直秀	早島町教育委員会 学校教育課指導主幹
16	畑野 裕子	早島町立早島中学校 保健主事	33	三宅 里佳	早島町教育委員会 学校教育課主事
17	田中 希美	早島町立早島中学校 給食主任			

4 事業の経過

時期	内容	対象・場所等
6月	○第1回 実態調査 ○第1回 校内研修	・児童生徒、保護者 ・小学校
7月	○第1回 食育推進委員会（全体会） ○第2回 食育推進委員会（献立作成部会）	・推進委員、ゆるびの舎 ・推進委員、ゆるびの舎
8月	○先進地視察 ○衛生講習会	・推進委員等 竹原市立吉名小学校 ・調理従事者、小学校
9月	○第3回 食育推進委員会（衛生管理部会） ○第4回 食育推進委員会（物資購入部会）	・推進委員、ゆるびの舎 ・推進委員、ゆるびの舎
10月	○給食試食会 ○授業公開	・小学校第1学年保護者 小学校食堂 ・町内教職員、地域関係者等 小学校第5学年教室
11月	○第2回 実態調査 ○親子料理教室	・児童生徒、保護者 ・児童、保護者 小学校家庭科室
12月	○レシピ集作成および調理実習	・栄養委員 早島町地域福祉センター
1月	○アレルギー講習会 ○第5回食育推進委員会（全体会） ○全国連絡協議会	・町内教職員、推進委員 ゆるびの舎 ・推進委員、ゆるびの舎 ・小学校栄養教諭 文部科学省

5 研究の経過

(1) 幼・小・中で連携した食に関する指導の実践と学校給食の充実に向けた取組

食に関する指導の充実と学校給食の円滑な実施のため、町教育委員会が学校における食育について協議する全体会、給食運営について協議する物資購入、献立作成、衛生管理の3部会で構成する食育推進委員会を設立した。

この会は、子どもの望ましい食習慣の形成や食に関する指導を推進するため、学校給食の普及や献立内容の充実を図り、教科等においても学校給食が「生きた教材」として活用されるように取り組むこと。また、栄養教諭等による食物アレルギー等への対応や指導を推進すること。さらに、学校給食における地場産物の活用を推進し、米飯給食の充実を図り、単独調理場方式による教育効果を高める方策について検討することを目的とした。

ア 食育推進委員会

推進委員		運営部会・協議事項				
教育長 学校教育課長 校園長 学校医代表 学校薬剤師代表 幼小中保護者代表 地域保健所代表 学識経験者 学校教育課 ・指導主事 ・学校給食係 保健主事 給食主任 体育主任 養護教諭 栄養教諭 学校栄養職員 調理員 他	物資購入	・納入業者の選定と連携 ・安全性と地場産物の活用等教育的配慮がなされた物資の選定と管理 ・原材料及び加工食品の微生物・理化学検査の実施 他				
	献立作成	・食に関する指導の生きた教材となり、衛生的な調理作業となる献立の検討 ・実施した献立の評価・改善方法の検討 ・個別（食物アレルギー等）対応方法の検討 他				
	衛生管理	・有識者等と連携した定期点検の実施と報告 ・日常点検・定期点検結果、改善が必要と認められる事項について必要な措置の検討 他				
	設置者の配慮事項					
		1 保護者や栄養教諭・学校栄養職員、教職員等の意見が反映されるよう配慮する。 2 各校異なる献立を実施する場合でも設置者は、内容を把握し、その責務をもつ。 3 全調理員の資質向上のために研修の機会を確保し、給食調理の標準化を目的とした研修会を実施する。				
回	第1回	第2回	第3回 (※1)	第4回	第5回	第6回
月(※2)	7月	7月	8月	9月	9月	1月
内容	食育推進委員会	献立作成部会	衛生講習会	衛生管理部会	物資購入部会	食育推進委員会

(※1) 第3回は、調理員を対象にした衛生と調理に関する講習会とする。

(※2) 開催月は、事務局で協議し状況に応じて変更する。

イ 食育ニュース

幼稚園・小学校・中学校の保護者と教職員に食育推進委員会の役割と食に関する情報発信を行い、食に関する興味関心を高め、食育の実践につなげることを目的としている。具体的な内容は、「食育推進委員会の体制と役割」「食生活・生活習慣アンケート調査結果と課題」「食に関する情報発信（知識・レシピ等）」で構成する。

(図1)

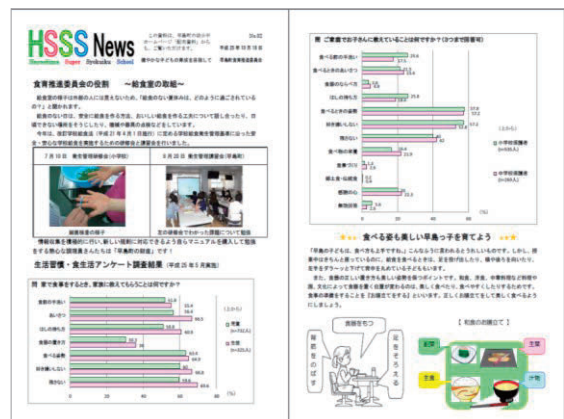


図1 食育ニュース

ウ 献立作成部会

子どもたちが、食事の重要性や心身の成長、健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事の摂り方を理解して自ら管理していく能力を養い、食べ物を大事にして食料生産等に関わる人々へ感謝する心、食事の規則や食事を通じた人間関係形成能力を育てる等の目的を達成できる内容とし、地場産物の活用を推進するとともに、新鮮な食材を使用し、子どもたちが安心して食べることができる給食の提供に努める。(図 2)

【献立についての意見交換 (一部抜粋)】

(意見) 以前より、デザートが出る回数が少なくなった。子どもたちも楽しみにしているし、苦手なものも頑張ってお食べるきっかけになるので増やしてほしい。

(回答) 行事や献立のめあてに応じてデザートや果物をつけている。また、家庭の献立の見本となるよう食品や料理の組み合わせ、量を考えている。さらに、健康な成長に必要な 1 食分の食事と理解して、食べることができる子どもを育てるといった目的を果たす献立になるようにしている。

(意見) デザートや果物がある日が多い。食習慣形成期なので、月 2 回程度を目安に作成してほしい。

(回答) 残さず食べることができない子どももいる。「食べてこそその栄養」と考えて献立を作成している。

エ 衛生講習会

安全で愛情を込めた安心して食べることができる給食を提供するため、調理場の立ち入り検査や細菌検査から明らかになった課題を知らせ、学校給食衛生管理基準を読み、作業方法や作業工程について見直しを行った。(図 3)

オ 衛生管理部会

給食調理現場の課題や取組についての紹介を行い、児童生徒等への衛生管理方法について伝達し、給食当番の健康観察の徹底と対処方法等の諸帳簿への記録方法を確認した。

カ 物資購入部会

アンケート調査(平成 25 年 5 月実施)で、保護者の半数が「学校給食に安全な食材の使用を望む。」と回答した。そこで、良質で安全な食品を安定して使用するために、納入規格や条件等について生産者団体と意見交換を行い、農産加工品も活用できるようにした。

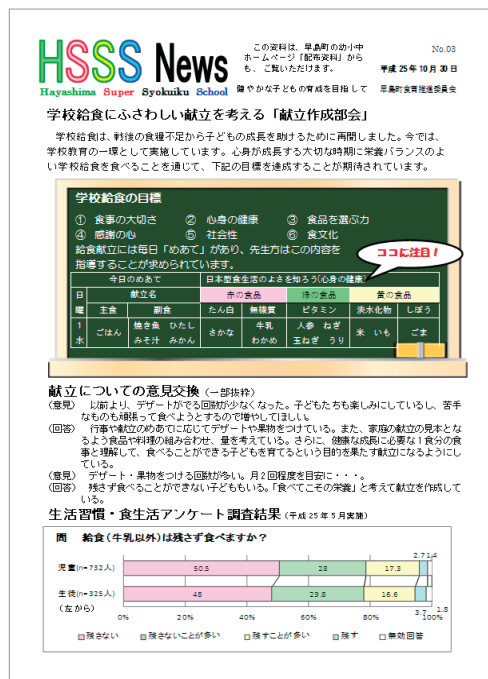


図 2 食育ニュース
「献立作成部会について」



図 3 衛生講習会

(2) 健やかな心と体、人間関係を育む食に関する指導の充実
ア 食に関する指導の全体計画・年間指導計画

早島町教育委員会													
平成25年度 食育(給食)年間計画													
月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3		
目標	1人分の量をきちん食べよう				好きな食べ物を食べよう				食事が多くの人に愛えられていることを理解する				
行事等	お花見 入学運動会 入学運動会	お花見 入学運動会 入学運動会	お花見 入学運動会 入学運動会	お花見 入学運動会 入学運動会	お花見 入学運動会 入学運動会	お花見 入学運動会 入学運動会	お花見 入学運動会 入学運動会	お花見 入学運動会 入学運動会	お花見 入学運動会 入学運動会	お花見 入学運動会 入学運動会	お花見 入学運動会 入学運動会	お花見 入学運動会 入学運動会	
料理名	たけのこごはん 餅の西京焼き 若竹汁 雑もち	豆ごぼん 赤飯 餅の西京焼き かしわもち 新茶料理	モグ丸くんごはん 魚の豪華焼き 麻婆なす	夏野菜カレー 縁のかば焼き そらめん汁 納豆	くりごぼん 秋刀魚の塩焼き ままかりの新巻漬 け	カリフラワー ★キャベツ ★金時にんじん ★小松菜 ★大根 ★大根 ★ほうれん草 ★れんこん ★春菊 ★ねぎ ★白菜 ★黒豆 ★七草 ★ウイフルーツ ぼんかん みかん りんご	カリフラワー ★キャベツ ★金時にんじん ★小松菜 ★大根 ★大根 ★ほうれん草 ★れんこん ★春菊 ★ねぎ ★白菜 ★黒豆 ★七草 ★ウイフルーツ ぼんかん みかん りんご	カリフラワー ★キャベツ ★金時にんじん ★小松菜 ★大根 ★大根 ★ほうれん草 ★れんこん ★春菊 ★ねぎ ★白菜 ★黒豆 ★七草 ★ウイフルーツ ぼんかん みかん りんご	カリフラワー ★キャベツ ★金時にんじん ★小松菜 ★大根 ★大根 ★ほうれん草 ★れんこん ★春菊 ★ねぎ ★白菜 ★黒豆 ★七草 ★ウイフルーツ ぼんかん みかん りんご	カリフラワー ★キャベツ ★金時にんじん ★小松菜 ★大根 ★大根 ★ほうれん草 ★れんこん ★春菊 ★ねぎ ★白菜 ★黒豆 ★七草 ★ウイフルーツ ぼんかん みかん りんご	カリフラワー ★キャベツ ★金時にんじん ★小松菜 ★大根 ★大根 ★ほうれん草 ★れんこん ★春菊 ★ねぎ ★白菜 ★黒豆 ★七草 ★ウイフルーツ ぼんかん みかん りんご	カリフラワー ★キャベツ ★金時にんじん ★小松菜 ★大根 ★大根 ★ほうれん草 ★れんこん ★春菊 ★ねぎ ★白菜 ★黒豆 ★七草 ★ウイフルーツ ぼんかん みかん りんご	
陸のお宝(農産物)	★キャベツ ★さやえんどう ★アスパラガス ★なす ★たけのこ	★じゃがいも ★アスパカ ★キャベツ ★アスパラガス ★さやいんげん ★なす ★大根 ★ごぼう ★バジル ★くらんぼ ★びわ	★じゃがいも ★アスパラガス ★さやいんげん ★なす ★大根 ★ごぼう ★バジル ★くらんぼ ★びわ	★じゃがいも ★アスパラガス ★さやいんげん ★なす ★大根 ★ごぼう ★バジル ★くらんぼ ★びわ	★じゃがいも ★アスパラガス ★さやいんげん ★なす ★大根 ★ごぼう ★バジル ★くらんぼ ★びわ	★じゃがいも ★アスパラガス ★さやいんげん ★なす ★大根 ★ごぼう ★バジル ★くらんぼ ★びわ	★じゃがいも ★アスパラガス ★さやいんげん ★なす ★大根 ★ごぼう ★バジル ★くらんぼ ★びわ	★じゃがいも ★アスパラガス ★さやいんげん ★なす ★大根 ★ごぼう ★バジル ★くらんぼ ★びわ	★じゃがいも ★アスパラガス ★さやいんげん ★なす ★大根 ★ごぼう ★バジル ★くらんぼ ★びわ	★じゃがいも ★アスパラガス ★さやいんげん ★なす ★大根 ★ごぼう ★バジル ★くらんぼ ★びわ	★じゃがいも ★アスパラガス ★さやいんげん ★なす ★大根 ★ごぼう ★バジル ★くらんぼ ★びわ	★じゃがいも ★アスパラガス ★さやいんげん ★なす ★大根 ★ごぼう ★バジル ★くらんぼ ★びわ	★じゃがいも ★アスパラガス ★さやいんげん ★なす ★大根 ★ごぼう ★バジル ★くらんぼ ★びわ
海のお宝(水産物)	★あなご ★いか ★かつお ★さわら ★ちりめんじゃこ ★わかめ	★あなご ★いか ★かつお ★さわら ★ちりめんじゃこ ★わかめ	★あなご ★いか ★かつお ★さわら ★ちりめんじゃこ ★わかめ	★あなご ★いか ★かつお ★さわら ★ちりめんじゃこ ★わかめ	★あなご ★いか ★かつお ★さわら ★ちりめんじゃこ ★わかめ	★あなご ★いか ★かつお ★さわら ★ちりめんじゃこ ★わかめ	★あなご ★いか ★かつお ★さわら ★ちりめんじゃこ ★わかめ	★あなご ★いか ★かつお ★さわら ★ちりめんじゃこ ★わかめ	★あなご ★いか ★かつお ★さわら ★ちりめんじゃこ ★わかめ	★あなご ★いか ★かつお ★さわら ★ちりめんじゃこ ★わかめ	★あなご ★いか ★かつお ★さわら ★ちりめんじゃこ ★わかめ	★あなご ★いか ★かつお ★さわら ★ちりめんじゃこ ★わかめ	★あなご ★いか ★かつお ★さわら ★ちりめんじゃこ ★わかめ
その他の産物	米(あけぼの) 黒米 巨大胚芽米COG0R0 餅 菓子 シロップ漬 小豆(味付け) のり リンゴ ブルーベリー サクランボ ぶどう いちご みかん りんご ぶどう(紫苑)	米(あけぼの) 黒米 巨大胚芽米COG0R0 餅 菓子 シロップ漬 小豆(味付け) のり リンゴ ブルーベリー サクランボ ぶどう いちご みかん りんご ぶどう(紫苑)	米(あけぼの) 黒米 巨大胚芽米COG0R0 餅 菓子 シロップ漬 小豆(味付け) のり リンゴ ブルーベリー サクランボ ぶどう いちご みかん りんご ぶどう(紫苑)	米(あけぼの) 黒米 巨大胚芽米COG0R0 餅 菓子 シロップ漬 小豆(味付け) のり リンゴ ブルーベリー サクランボ ぶどう いちご みかん りんご ぶどう(紫苑)	米(あけぼの) 黒米 巨大胚芽米COG0R0 餅 菓子 シロップ漬 小豆(味付け) のり リンゴ ブルーベリー サクランボ ぶどう いちご みかん りんご ぶどう(紫苑)	米(あけぼの) 黒米 巨大胚芽米COG0R0 餅 菓子 シロップ漬 小豆(味付け) のり リンゴ ブルーベリー サクランボ ぶどう いちご みかん りんご ぶどう(紫苑)	米(あけぼの) 黒米 巨大胚芽米COG0R0 餅 菓子 シロップ漬 小豆(味付け) のり リンゴ ブルーベリー サクランボ ぶどう いちご みかん りんご ぶどう(紫苑)	米(あけぼの) 黒米 巨大胚芽米COG0R0 餅 菓子 シロップ漬 小豆(味付け) のり リンゴ ブルーベリー サクランボ ぶどう いちご みかん りんご ぶどう(紫苑)	米(あけぼの) 黒米 巨大胚芽米COG0R0 餅 菓子 シロップ漬 小豆(味付け) のり リンゴ ブルーベリー サクランボ ぶどう いちご みかん りんご ぶどう(紫苑)	米(あけぼの) 黒米 巨大胚芽米COG0R0 餅 菓子 シロップ漬 小豆(味付け) のり リンゴ ブルーベリー サクランボ ぶどう いちご みかん りんご ぶどう(紫苑)	米(あけぼの) 黒米 巨大胚芽米COG0R0 餅 菓子 シロップ漬 小豆(味付け) のり リンゴ ブルーベリー サクランボ ぶどう いちご みかん りんご ぶどう(紫苑)	米(あけぼの) 黒米 巨大胚芽米COG0R0 餅 菓子 シロップ漬 小豆(味付け) のり リンゴ ブルーベリー サクランボ ぶどう いちご みかん りんご ぶどう(紫苑)	米(あけぼの) 黒米 巨大胚芽米COG0R0 餅 菓子 シロップ漬 小豆(味付け) のり リンゴ ブルーベリー サクランボ ぶどう いちご みかん りんご ぶどう(紫苑)

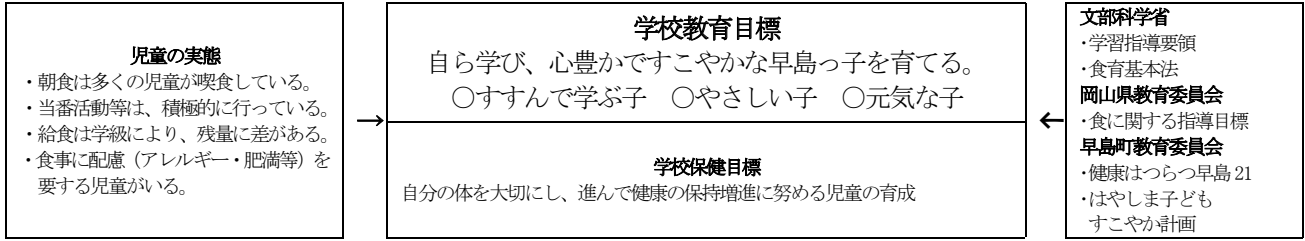
平成 25 年度食に関する年間指導計画

早島幼稚園

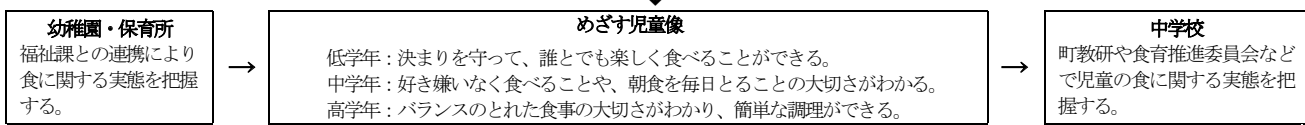
	1 期 (4 月～5 月)	2 期 (6 月～7 月)	3 期 (9 月～10 月)	4 期 (11 月～12 月)	5 期 (1 月～3 月)
3 歳児	食事(牛乳)の前の手洗いがいかなどの仕方を知る。	友達と一緒に楽しく牛乳を飲む。	食事の仕方を知り喜んで食べる。	先生や友達と一緒に楽しい雰囲気の中で食事をします。	食事のマナーや良い習慣を身に付ける。
ねらい	先生や友達と楽しい雰囲気の中で食事をします。	夏野菜の生長を見たり、触れたりすることで食に興味をもつ。	ハツカダイコンの栽培を通して色々な食材に興味や関心をもつ。	嫌いな物にも挑戦したり、感謝の気持ちをもちます。	食事のマナーを身に付け、友達と楽しい雰囲気の中で食事をします。
	食べ物大切さを知り、栽培したものの生長に興味や関心をもつ。	夏野菜を育てるところを通して収穫の喜びを味わう。	食べ物のパワーやいろいろな食べ物について関心をもつ。	収穫の喜びを味わいながら食べ物への関心を高め、感謝する気持ちをもつ。	好き嫌いをしないで残さず食べ、食べ物の大切さや体に大切なことを感じる。
3 歳児	牛乳 (毎日)				
5 4 歳児	弁当 (火、木、金) 牛乳 (月、水、金)				
栽培	<ul style="list-style-type: none"> 夏野菜の苗を植える。 個人鉢にミニトマトの苗を植える。(5 歳児) スナップエンドウの収穫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏野菜の収穫をする。 ミニトマトの収穫をする。(5 歳児) タマネギ、ジャガイモの収穫をする。 サツマイモの苗を植える。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人鉢にハツカダイコンの種をまく。収穫する。(4 歳児) 個人鉢にミニダイコン等の種をまく。収穫する。(5 歳児) ダイコンを植える。 	<ul style="list-style-type: none"> サツマイモの収穫をする。 ダイコンの収穫をする。 タマネギの苗を植える。 スナップエンドウの種をまく。 	<ul style="list-style-type: none"> ジャガイモを植える。

平成 25 年度 食に関する指導の全体計画

早島小学校



食に関する指導目標	
①【食事の重要性】	食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。
②【心身の健康】	心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。
③【食品を選択する能力】	正しい知識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。
④【感謝の心】	食物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々へ感謝する心をもつ。
⑤【社会性】	食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。
⑥【食文化】	各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。



学年		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年					
教科との関連	国語	・ものの名まえ		・すがたをかえる大豆 ・食べ物のひみつを教えます								
	生活	社会	・おてつだい だいさくせん	・おひさまの おいっぱい とれたてやさい ・町探検 ・夏野菜が できたよ ・秋のしゅう かくみんな で作ろう	・わたしたちのくらし とはたらく人びと ・今にのこる昔のくらしと道具	・ごみのしまつ ・くらしを ささえる水 ・県の人々のくらし	・わたしたちの食生活 と食料生産	・米作りのはじまりと 国の統一 ・新しい日本へのあゆみ ・日本とつながりの深い国				
					理科	・どれくらい育った かな	・動物のからだの つくりと運動	・生命のたんじょう	・地球と生き物のくらし ・動物のからだのはたらき ・生き物のくらしと環境 ・人と環境			
	家庭					・はじめてみよう クッキング ・元気な毎日と食べ物	・くふうしよう 朝の生活 ・くふうしよう 楽しい食事					
	体育			・健康な生活 ・毎日の生活と健康	・育ちゆくからだ とわたし		・病気予防					
道徳	1 基本的な生活習慣、2 礼儀・感謝、3 自然愛・動植物愛護・生命尊重、4 家族愛・郷土愛・人類愛・国際理解											
総合的な学習の時間				・食べ物かかせに なろう			・稲作体験					
特別活動	教科級活動	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	学校行事	・学校のきまり ・夏休みのくらし			・運動会 ・夏休み		・目をたいせつに ・正しい姿勢		・冬休みのくらし		・かぜの予防 ・春休みのくらし	
	委員会活動	・給食の後片付け		・給食献立の表示		・食育ポスターの作成		・校外学習 ・修学旅行		・終了式 ・卒業式		
	クラブ活動	・調理クラブ										
食に関する指導	・別添参照											
個別指導	・食物アレルギー個別対応											
家庭・地域連携	・学校通信 ・保健だより ・予定献立表 ・食育だより ・試食会 ・学校保健委員会 ・ホームページ ・ブログ ・料理教室											
給食との関連	・栄養教諭等のクラス訪問指導、アレルギー対策委員会 ・学校保健委員会 ・リクエスト献立											

平成25年度 食に関する年間指導計画

早島小学校

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年	道徳 おめでとう 4-(3)(感) 学級活動 給食の手順(重)		道徳 いなりやまの こんたろう 2-(1)(社)	道徳 がっこうのよう むしゅじさん 2-(4)(感)	道徳 いきでるよ げんきだよ 3-(1)(感)		生活 おてつだい だいさくせん (社)		国語 ものの名まえ (選)	道徳 いただきます 3-(1)(感)		
2年	道徳 おじいさん こんにちば 2-(1)(社)	生活 おひさまのお いっばい たてやさい (選・感)	道徳 げん気でわくわく 3-(1)(感) 生活 町探検(社・感)	生活 夏野菜が できたよ (選・文)	道徳 きつねと ぶどう 2-(4)(感)	生活 秋のしゅうかく みんなで作ろう (文・感)	道徳 ぼくのうちの 夕はん 3-(2)(感)					
3年	道徳 言葉のまま 2-(1)(社)		学級活動 給食の後片付け (社)	体育 健康な生活(健) 理科 どれくらい 育ったかな (選)	道徳 お母さんなかな いで3-(1)(感) 社会 わたしたちのくらしはたらく人びと (感・文)	国語 すがたをかえる 大豆(選)	国語 食べ物のひみつを 教えます(選・文)	道徳 プランドーの請求書 4-(3)(感)	道徳 あの日のこと 2-(4)(感)	道徳 毎日の生活と健康(健)		
4年	社会 ごみのしまつ (健)	道徳 えがおで あいさつ 2-(1)(社) 社会 くらしをささえ る水(重・健)	理科 動物のからだの つくりと運動 (健)	道徳 おばあさんの おねがえ 4-(3)(感)	道徳 不思議の不思議 3-(1)(感)	道徳 不思議の不思議 3-(1)(感)			道徳 だがいやの おばあちゃん 2-(4)(感)	体育 育ちゆくからだ とわたし (健)	道徳 あなたがもつ 生きる力 3-(1)(感)	
5年		道徳 待合室で 出会った 少女 2-(1)(社)	社会 わたしたちの食生活と食料生産(選・社)	道徳 ごはんとみそしるを作ってみよう(重・健・文) どんなものを食べているんだろう(重・健・文) バランスのよい食事をしよう(重・健・文) 道徳 たまご焼き 4-(5)(感) 学級活動 朝食の大切さを知ろう(重・健・文)	道徳 ごはんとみそしるを作ってみよう(重・健・文) どんなものを食べているんだろう(重・健・文) バランスのよい食事をしよう(重・健・文) 道徳 たまご焼き 4-(5)(感) 学級活動 朝食の大切さを知ろう(重・健・文)				道徳 いただきます 2-(5)(感)			
6年	社会 米作りのはじま りと国の統一 (社・文) 家庭 くふうしよう 朝の生活 (重・健・選) 理科 地球と生き物のくらし(重・社)	道徳 気持ちを伝える 言葉 2-(1)(社)	道徳 おばあちゃんの心 4-(5)(感) 理科 動物のからだ はたらき(健) 体育 病気の予防 (重・健・選)	理科 生き物のくらし と環境 (重・社)	道徳 その思いを 受け継いで 3-(1)(感)	道徳 その思いを 受け継いで 3-(1)(感)	家庭 くふうしよう 楽しい食事 (重・健・選)	社会 新しい日本へのあゆみ (文)	道徳 地震で 学んだこと 2-(5)(感)	社会 日本とつながり の深い国 (文) 理科 人と環境(重・健・社)		

【食育の観点】 <重>食事の重要性 <健>心身の健康 <選>食品を選択する能力 <感>感謝の心 <社>社会性 <文>食文化

【学校教育目標】
 自主性・創造性にみちた心豊かな生徒の育成に努める
 校訓 自主・熱情・敬愛

生徒の実態
 ・野菜など好き嫌いをする生徒が多い。
 ・牛乳の残量が多い。
 ・朝食は食べてきているが、バランスは良くない。
保護者の願い
 ・安全な食品を使ってほしい。
 ・地場産物を使ってほしい。
 ・好き嫌いをなくしてほしい
地域の実態
 ・人口密度が県内一高い町。コミュニティ活動が盛んで町民が協力的。

食に関する指導の目標
 ①食事の重要性、食事の喜び、楽しさの理解をする。
 ②心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事の取り方を理解し、自ら管理していく能力を身につける。
 ③正しい知識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身につける。
 ④食物を大切にし、食物の生産等にかかわる人々への感謝する心を育む。
 ⑤食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身につける。
 ⑥各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。

文部科学省
 ・学習指導要領
 ・食育基本法
岡山県教育委員会
 ・食に関する指導目標
早島町教育委員会
 ・健康はつらつ早島 21
 ・はやしま子どもすこやか計画

幼稚園 保育所 福祉課との連携により食に関する実態を把握する。	小学校 町教研や食育推進委員会などで児童の食に関する実態を把握する。	各学年の食に関する指導の目標		
		1 学年	2 学年	3 学年
		○毎日規則正しく食事を摂ることができる。 ○自分の生活や課題をみつけ、望ましい食事の仕方や生活習慣を理解し、自らの健康を保持増進しようとする。	○食環境と自分の食生活との関わりについて理解することができる。 ○身体の発達に伴う必要な栄養や食品に含まれる栄養素の種類と働きを知り、中学生の時期に望ましい栄養について理解する。	○生活の中で食事が果たす役割や健康との関わりを理解する。 ○1 日分の献立をたて、簡単な日常食の調理ができる。 ○食品を安全で衛生的に取り扱うことができる。

		1 年		2 年		3 年						
教科との関連	技術・家庭(家庭分野)			私たちの食生活 私たちの食品の選択と調理 わたしたちのより豊かな食生活		わたしたちの成長と家族・地域						
	保健体育(保健分野)	心身の発達と心の健康		健康と環境		健康な生活と疾病の予防						
	理科	植物のくらしとなかま身のまわりの物質		動物のくらしやなかまと生物の変遷		生命の連続性 化学変化とイオン 運動とエネルギー 自然と人間						
	社会	世界各地の人々の生活と環境 世界の様々な地域の調査		日本の諸地域 身近な地域		多文化社会・異文化社会 貧困問題の現状						
道徳	1 主として自分自身に関すること (1) 2 主として他の人とのかかわりに関すること (1) (6) 3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること (1) (2) 4 主として集団や社会とかかわりに関すること (5) (6) (8) (9) (10)											
総合的な学習の時間	関谷研修				広島研修、職場体験学習			修学旅行				
特別活動	学級活動及び給食時間	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	○学級活動 ○食に関する指導 ●給食指導	○学級の組織作り ◎衛生、能率を考えた準備、片づけ、正しい配膳 ●給食時間の過ごし方		○夏の健康 ◎水分補給の仕方を知ろう ●食事と衛生		○生活リズムを整えよう ◎朝食の大切さを見直そう(1年) ◎成長期の朝ごはんの大切さを知ろう(2年) ◎成長期に必要な1日の食事の量を知ろう(3年) ●給食時間の過ごし方		○望ましい生活習慣 ◎旬の食材について知ろう(1年) ◎日本食の良さを知ろう(2年) ◎日本型食生活の良さを理解しよう(3年) ●感謝して食べよう		○冬の健康(風邪の予防) ◎地場産物を使った料理を知ろう(1年) ◎望ましい食生活について考えよう(2年) ◎生涯の健康について考えよう(3年) ●食生活を振り返ろう		
	全校一斉指導	給食指導、残菜調査、年間を通して計画的に食堂での学年、学級交流と親睦を図る。										
	学校行事	入学式・身体測定(4月)修学旅行(5月) 体育会・食育月間・歯の衛生週間 地場産物活用週間(6月)					早祭祭(9月)職場体験(10月) 朝食アンケート・地場産物活用週間(11月)			学校給食週間(1月) 学校給食試食会(2月) 卒業式(3月)		
生徒会活動	給食放送(健康委員会)、残量調査(体育委員会)											
家庭・地域との連携の取組み方	○食育について、家庭・地域の理解と協力を求めるとともに、家庭における食生活改善の関心を深める。 ・学校だより、学級通信、給食だより、保健だよりの発行 ・学校給食試食会、学校保健委員会、講演会等の実施											

食育目標	4月	5月	6月	7-8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	協力して給食準備をしよう	正しいマナーで食事をしよう	よくかんで食べよう	夏の食生活について考えよう	生活リズムを整えよう	運動と食事の関係について知ろう	感謝して食べよう	冬の食生活について考えよう	給食週間の食事について知ろう	健康を考えたい食事をしよう	食生活をふりかえろう
		国「ダイコンは大きな根？」他の食べ物についても調べよう	社「世界各地の人々の生活と環境」世界、日本の農業について学習する	英「海外の伝統料理とフーズ」A.L.T.による食文化の紹介	英「アメリカでのホームステイ」食事のマナー	保「心身の発達と心の健康」身体機能の発達	理「身のまわりの物質」いろいろな気体とその性質	理「身のまわりの物質」水溶液の性質			
2年	家「わたしたちの食生活」食事のとり方を考えよう	家「わたしたちの食品の選択と調理」食品の選び方を考えよう	家「わたしたちの食生活」食品に含まれる栄養素を知ろう	英「海外の伝統料理とフーズ」A.L.T.による食文化の紹介	英「アメリカでのホームステイ」食事のマナー	保「健康と環境」飲料水や空気の衛生的管理	保「健康と環境」生活に伴う廃棄物の衛生的管理	家「わたしたちのより豊かな食生活」日常食を見直そう	家「わたしたちのより豊かな食生活」地域の食材を使って調理しよう	総「バランスのとれた食生活を考えよう」	社「身近な地域の特産物や郷土料理を調べる」
	技「人・生物・環境の関わりについて知ろう」日本の食料生産の現状	技「植物を育てる技術を知ろう」生産向上・効率化のための技術	技「動物を育てる技術を知ろう」やまかまと生物の体をつくる細胞	英「海外の伝統料理とフーズ」A.L.T.による食文化の紹介	英「アメリカでのホームステイ」食事のマナー	保「健康と環境」飲料水や空気の衛生的管理	保「健康と環境」生活に伴う廃棄物の衛生的管理	保「健康と環境」生活に伴う廃棄物の衛生的管理	家「わたしたちのより豊かな食生活」日常食を見直そう	家「わたしたちのより豊かな食生活」地域の食材を使って調理しよう	総「バランスのとれた食生活を考えよう」
3年		英「わたしたちの日本文化紹介」日本の食べ物を紹介しよう	理「生命の連続性」生物のふえ方と遺伝	理「化学変化とイオン」酸・アルカリと塩	保「健康な生活と疾病の予防」健康の成り立ちと疾病の発生源	保「健康な生活と疾病の予防」生活行動・生活習慣	家「幼児とのふれあい」幼児が楽しく生活できるために	保「健康な生活と疾病の予防」感染症の予防	理「自然と人間」自然の恵み	保「健康な生活と疾病の予防」個人の健康を守る社会の取り組み	社「貧困問題の現状」
		理「生命の連続性」生物の成長	家「わたしたちの成長と家族・地域」幼児の心身の発達と生活を知ろう	英「海外の伝統料理とフーズ」A.L.T.による食文化の紹介	英「食卓での会話」食事のマナー	保「健康な生活と疾病の予防」生活行動・生活習慣	保「健康な生活と疾病の予防」生活行動・生活習慣	保「健康な生活と疾病の予防」生活できるために	理「自然と人間」自然の恵み	保「健康な生活と疾病の予防」個人の健康を守る社会の取り組み	社「貧困問題の現状」

【食育の観点】

＜重＞食事の重要性

＜健＞心身の健康

＜選＞食品を選択する能力

＜感＞感謝の心

＜社＞社会性

＜文＞食文化

イ 食に関する指導の実際

(担任、養護教諭、栄養教諭、ゲストティーチャーによる授業)

食に関する指導の年間指導計画に従い指導を行った第4・5学年の実践を報告する。

- ① 第4学年 体育科 「育ちゆくからだとわたし」
- ② 第5学年 道徳 「父母の愛」 資料名 〈たまご焼き〉
- ③ 第5学年 学級活動 「食事のマナーについて知ろう」
- ④ 第5学年 社会科 「私たちの食生活と食料生産」
- ⑤ 第5学年 家庭科 「元気な毎日と食べ物」

① 第4学年 体育科 「育ちゆくからだとわたし」

第4学年が体育科「育ちゆくからだとわたし」の授業で、担任、養護教諭、栄養教諭が専門性を生かし、協力して食に関する指導を実施した。食育の視点は【食事の重要性】「食事は生きていく上で欠かすことができない大切なものであることを理解する。」と【心身の健康】「心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事の取り方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。」である。

指導にあたり、体育科(保健領域)の第3・4学年の指導内容の中で(2)のウ「体をよりよく発育・発達させるには、調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠が必要であること」に着目し、第3次「よりよく育つための生活」を中心に授業研究を行った。

養護教諭は、日々の児童との関わりの中で、きちんとした朝食を摂取していないことや就寝時間が遅い等の原因で体調を崩しているのではないかと考えていた。回復後「他にも何か食べられたらよかったね。」「どうして寝るのが遅くなったの?」「もう少し早く寝ようね。」等、振り返りを促しただけで、ゆっくり話をする時間が取れず、その場だけの対応に終わっていたことを反省する思いがあった。そこで、授業前に生活習慣と食生活アンケートを実施し、その結果を指導に生かそうと考えた。アンケート結果から、「就寝時間」「たちくらみやめまい」「身体のだるさや疲れ」「食欲無し」「やる気なし」「イライラする」の項目に問題があることがわかった。こうした実態を踏まえ、指導案を作成し、授業後にアンケートを実施し、指導効果や児童の生活態度や意欲の変化をつかもうとした。

1 単元名 育ちゆくからだとわたし

2 目標

- ・体の発育・発達について関心をもち、健康に配慮した生活について、自分を振り返ることができる。
- ・体は、年齢に伴って変化することを理解するとともに、発育・発達の仕方には、個人差があることがわかる。
- ・思春期になると体つきが変化し、男女の特徴が現れることを理解することができる。
- ・思春期には、初経、精通等が起ったり、異性への関心が芽生えたりし、これらの変化は大人の体に近づいていることの表れであることを理解することができる。
- ・体をよりよく発育・発達させるには、調和のとれた食事、適切な運動、休養、睡眠が必要であることを理解することができる。

3 指導計画 (全5時間)

事前	アンケート調査	(平成25年5月実施)
第1次	大きくなってきたわたしの体	(1時間)
第2次	思春期にあらわれる変化	(2時間)
第3次	よりよく育つための生活	(2時間) …本時
事後	アンケート調査	(本時の1週間後)

4 食育の視点

- ①食事の重要性 食事は生きていく上で欠かすことができない大切なものであることを理解する。
- ②心身の健康 栄養バランスのよい食事は、心身の成長の基本であることを理解する。

5 指導上の立場

本単元は、第3・4学年の指導内容(2)体の発育・発達について理解できるようにする。を受けて設定した。成長とともに起こる体の変化について学習し、成長には個人差があり、心身の成長や健康を保持増進する上で、調和のとれた食事や適切な運動、休養や睡眠が必要であることを理解させることをねらっている。また、成長の個人差から生じる不安や悩みを取り除き、健康に配慮した生活をしようとする意欲や態度の育成も本単元のねらいである。

事前に実施したアンケート調査結果から、本学級の児童は、運動を好み、スポーツクラブに所属していたり、学校の休み時間や放課後に外遊びをしたりする等活発な児童が多い。しかし、身体のだるさや意欲低下、苛立ちを感じている子が多いこともわかった。給食は残さずに食べようとする姿勢や意欲が見られ、給食を好んでいる児童が多いが、栄養バランスを考えた食事の大切さを理解して食事をしようとする意識が低いといった課題が明らかになった。

本時では、担任と養護教諭、栄養教諭が連携して指導をすることにより、学習効果を高めたいと考えた。栄養教諭は献立表と前日の給食の写真を用いて食事と成長との関わりについて、養護教諭は保健だよりや睡眠グラフを用いて休養・睡眠について指導するよう計画した。専門性を生かすことで、子どもたちに実感をもって自分の成長や健康について理解させようと考えた。

また、適度な運動の必要性を本町が実施している「心と体の健康づくりプロジェクト」のラジオ体操を行い、爽快感等運動することのよさを体感させることにより理解させたいと考えた。この取り組みは、7月31日にNHKの巡回ラジオ体操が実施されたこともあり、子どもたちの健康に対する意識を継続させる上でも有効だと考えたためである。

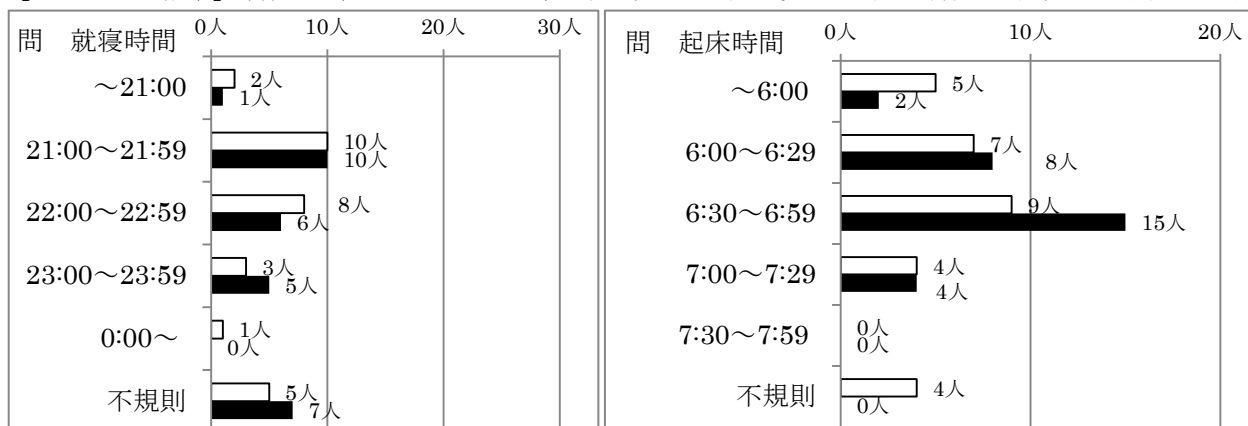
6 本時のめあて

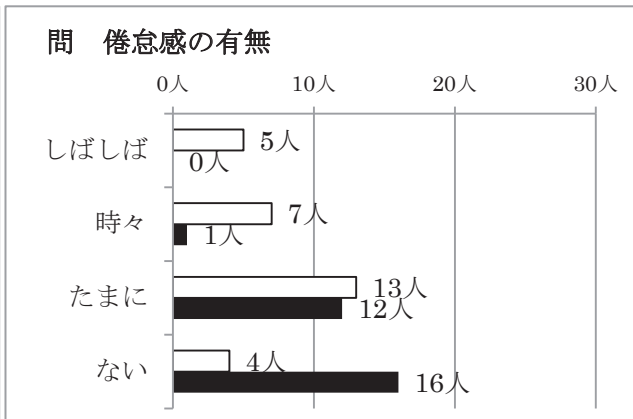
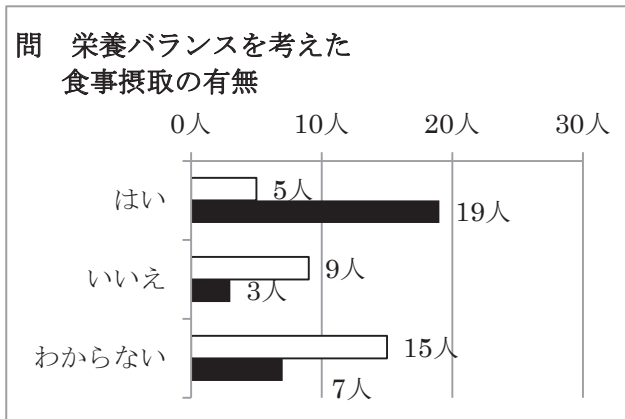
体がよりよく育つためには、適度な運動を継続して行い、毎日いろいろな種類の食品を食べ、休養と睡眠を十分にとることが必要であることを理解することができる。

7 本時案 (4/5~5/5)

学習活動	指導上の支援と留意点	準備物
1 今までの自分の成長を確認し、これからの成長について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の体が成長してきたことを確認させる。(T1) ○ 前時の学習を思い出しながら、よりよく育つためには、どんなことに気が付いたらよいか話し合い、今後の成長について考えさせる。(T1) 	・骨の模型
よりよく育つためにはどのようなことが大切なのだろう		
2 食事と成長について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ よい成長のために、どんな食事がよいのか話し合い、食事の大切さに気づくようにする。(T1) ○ 給食を思い出し、三つの視点から栄養バランスよく食べることの大切さを理解させ、よりよく食べようとする意識を高める。(T3) <p><よりよい成長に必要な栄養素></p> <p>① たん白質 ② カルシウム ③ ビタミン</p>	・献立表 ・給食写真 ・栄養素カード
3 ラジオ体操を行い、運動による気持ちの変化に気付かせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ラジオ体操を通じて、健やかな成長には、適度な運動が重要であることを知らせるとともに、爽快感等気持ちの変化に気付かせる。(T1) 	・骨の写真 ・骨の模型
4 休養・睡眠について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 休養・睡眠について、保健だよりを参考に話し合い、その大切さを発表させる。(T2) ○ 運動や睡眠について科学的な根拠をもとに、説明することで、理解を深めやすくする。(T2) 	・保健だより ・睡眠グラフ ・成長ホルモンの分泌
5 本時の学習を振り返り、自分の目標を決める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ よりよく育つために、自分が実践できることをワークシートに記入し、意識付けをする。(T1) 	・ワークシート
<p>【評価の観点】</p> <p>◎ よりよい成長には、バランスのよい食事、運動、休養、睡眠が必要であることが理解できたか。 [知識・理解] (ワークシート)</p> <p>◎ 自分の生活を振り返り、よりよくしようとする意欲をもてたか。 [関心・意欲・態度] (活動の観察)</p>		

【アンケート結果】平成25年5月実施 4年2組 (男子14人 女子15人 合計29人) □事前 ■事後





【児童の感想】

- 食事の栄養やバランスを考えて食べようと思います。それと、運動をたくさんして骨や筋肉を強くしたいです。他にも、睡眠をとって疲れやストレスを解消して、病気や風邪に負けない強い体を作りたいです。アンケート結果がよくなるように頑張ります。
- これまで、22時～23時ぐらいに寝ていたけど、21時～22時には寝るようにします。食事は、栄養を考えたことはなかったけど、「栄養を考えるのは大切だ。」と思いました。
- 私は、食事では好き嫌いをできるだけ減らしたいです。運動はたまにしかしないので、なおしたいです。きちんと睡眠がとれていなくて朝眠いので、今日から気を付けます。

【成果と課題】

〈成果〉

食事に対する興味関心をもち、給食時間に食べ物や栄養バランスを意識して食べたり、会話をしたりする場面がみられた。家庭の食事で不足しがちな栄養を補う工夫をするため保護者と相談して実践する児童がみられた。(図4)

体操を行い、運動が気分転換や爽快感につながることを体感させることで、運動が苦手な児童も休み時間には外遊びをしようと思いがける等、運動への意欲を高めることができた。(図5)

睡眠の効果と重要性を理解し、就寝時間を早めようという意識が高まった。忙しい中、睡眠時間を確保するため、家庭で話し合い計画的に過ごしたり、就寝時刻を意識したりする児童が増えた。

〈課題〉

日々の健康観察や給食時間等で呼びかけを行うことで、高まった健康に対する意識を確かなものにしていきたい。学年だよりや保健だより、食育だよりによる啓発活動や子どもの学習や学校での取り組みについての発信も継続させたい。



図4 栄養教諭による指導



図5 ラジオ体操の様子

② 第5学年 道徳 「父母の愛」 資料名 〈たまご焼き〉

第5学年 道徳 学習指導案

平成 年 月 日 () 指導者

- 1 主題名 父母の愛 内容項目 4 - (5)
- 2 資料名 「たまご焼き」(出典:文溪堂「5年生の道徳」)

3 主題設定の理由

(1) 主題について

本主題は、学習指導要領第5学年及び6学年の内容「4.主として集団や社会とのかかわりに関すること。」の「(5) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。」に基づいたものである。

家族とは、親子、兄弟姉妹がお互いに敬愛の心をもち合うことで、心から安心してくつろげる場にあることができるものである。また、家族愛は、互いの信頼と愛情によって培われていくもので、自分の都合や身勝手な考えで行動しては構築できるものではない。まず、互いを思いやる気持ちを育み、家族の一員としての自覚をもってこそ育つものである。

そこで、家族の中でも特にかかわりの深い保護者、父母、祖父母を敬愛し、家族の中における自己のあり方を考えることで、家族の心情を慮ったり、役に立とうとしたりする心情を育てていきたい。

(2) 児童について

自立心が発達するこの時期、児童は、父母や祖父母の自分に対する愛情、家族を支える大変さ等を理解できるようになってきている。しかしながら、世話になっていることを当たり前と思っている児童が多く、家での手伝いはするが、それぞれの立場を理解し合って助け合っているというところまで意識は及んでいない。

また、思春期の入り口で、心理的に不安定な時期になり、家族を思う気持ちと自立への欲求との間で葛藤が起こり、いけないと知りつつもわがままを言ったり、反抗してしまったりすることもある。

(3) 資料について

本資料は、3つの場面で構成されている。

1. 由紀は、遠足の日の前日に卵がないと知りながら「たまご焼き入れてや。」と駄々をこねる。

そのため父にしかられ、泣きじゃくりながら眠る。

2. 弁当の中に卵焼きを見つけ、みんなと離れて卵焼きを食べながら涙を流す。

3. 家に帰り、母から父が卵を手に入れてくれたことを聞き、風呂たきを始める。

これらの3つの場面を通して、由紀の気持ちの変化を共感的にとらえさせねらいに迫りたい。

4 指導について

(1) 食育の視点

感謝の心 自分が健康に生活できるのは、家族をはじめ多くの人々の苦労や努力に支えられているからである事を理解し、感謝の心をもち生活することができるようにする。

(2) 研究主題に迫るために

① 対話を取り入れた学習づくり

あたたかい雰囲気の中で、友達の思いをしっかりと聞き、自分の考えや思いを忌憚なく言い合うことができるよう、児童相互の思いがクラスの中で共有できるよう、工夫する。

② 言語活動の充実

心情円を効果的に活用することで、由紀の場面ごとの気持ちや、その変化を具体的にイメージし、児童一人ひとりがその心情をしっかりとらえ発言することができるようにする。

③ 学習の連続性

学校行事等で家族の方にお弁当を作ってもらった時、忙しい中で自分のために朝早くから準備を下さった家族の気持ちを考えさせ、感謝の気持ちを養う。

(3) 本時について

家族についての思いを簡潔に発表させることで、家族への素直な思いを表出させ、ねらいとする価値への方向付けがスムーズに行うことができるようにし、資料への導入を図る。

どうしても卵焼きを持って行きたいという気持ちに共感させ、とがめられて泣きじゃくる由紀のわがままさに焦点をあてる。

叱りながらも自分の言うことを考えてくれる両親の愛情への気づき、両親への感謝の気持ち、自分も家族の役に立とうとする意欲の3つの気持ちをおさえる。

心情円を効果的に活用することで、由紀の場面ごとの気持ちや、その変化を具体的にイメージし、児童一人ひとりがその心情をしっかりととらえることができるようにする。

5 他領域との関連等

家庭科「できるようになったかな 家族の仕事」の学習では、家族のいろいろな仕事を見つけ、自分ができる仕事を認識し、それを継続する意欲をもつことができるようにしていく。

6 授業を見ていただく視点

- ・家族への感謝の気持ちを伝えることの大切さを理解できたか。
- ・自分のこととして、考えられたか。
- ・これからの自分に生かそうと考えたか。

7 展開の概要

ねらい	家族に感謝するとともに、家族の一員としての自覚をもって、明るい家庭を築こうとする心情を深める。	
学習活動	主な発問と予想される反応	指導・支援の留意点
1 家族への感謝の気持ちについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家族への感謝の気持ちを伝えていますか ・いつもありがとう。 ・ときどき伝えている。 ・伝えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする価値について、具体的に話をすることで、方向付けをする。
家族へ感謝の気持ちを伝えることの大切さについて考えよう		
2 「たまごやき」を読んで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「たまご焼きを作って。」と駄々をこねたり、叱られたりしている由紀は、どんな気持ちでいるでしょうか。 ・みんなと同じように卵焼きを持っていきたい。 ・とても楽しみにしていたのに、どうして卵がないの。ひどい。 ・父ちゃんも母ちゃんも、私のことを考えてくれない。 ◎ シャベリながら食べる気にならなかった由紀の気持ちを考えよう。 ・うれしい。父ちゃん、母ちゃんありがとう。 ・ゆうべは父母に駄々をこねて悪かった。 ○ 母から昨日の事情を聞いて、由紀はどんなことを考えているのでしょうか。 ・しかりながらも、お父さんとお母さんは私のことをずっと考えていてくれたんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠足を楽しみに思う気持ちを押さえ、どうしても卵焼きを食べたいという由紀の気持ちを心情円を使うことで、より具体的に考えられるようにする。 ・心情円の変化を利用することにより、由紀の気持ちの動きに共感できるようにする。 ・家族への感謝の気持ち、愛情への気づき、自分も家庭の役に立ちたいという意欲等を押さえる。

<p>3 今までの自分を振り返る。</p> <p>4 教師の話聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何とか卵を手に入れて卵焼きを作ってくれたんだ。ありがとう。 ・忙しく働いている両親の気持ちを全く考えず、駄々をこねた自分は情けないなあ。 ・私も、家族の気持ちを考えて、役に立ちたい。 <p>○ 今日の勉強で大切なことはどんなことでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族に対する感謝の気持ち ・家族のために役に立つこと <p>・風呂たきってこんな思いでしていたのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を通して、家族が自分のために気にかけてくれていたのに、何も言えなかった経験から感謝の気持ちや家族の役に立ちたいと思うことが出来るようにする。 ・教師の体験談を聞くことにより、本時の余韻が残るようにする。
--	---	--

【成果と課題】

〈成果〉

本時では、日ごろ家族が自分に対してしてくれていることに気づき、感謝の心をもつことをねらいとした。本文を読み解いていくにつれて、児童も自分のこととしてとらえることができるようになり、感謝の気持ちを伝えることの大切さを実感し、併せてたまご焼きという題材を通して、食に対する感謝の念を感じ取ることができた。また、活動の中では、心情円等を活用しながら、全員参加の授業づくりを心がけ、主人公の気持ちをクラス全員でしっかりと考えることができた。（図 6・7）

〈課題〉

本題材は今から 40 年ほど前の教材であり、物語自体は、さらに 10 年前にさかのぼる。たまご焼きの価値等時代背景をいかにとらえさせるかがポイントであった。本時中も適宜補足はしたが、なかなか現実感をもって受け入れられないこともあった。そんな中で終末の校長先生の風呂焚きの話は実に現実味があり大変ありがたかった。物語の時代に子どもたちがしっかりと軸足を置くことができた。



図 6 主人公の心情にせまる発表



図 7 心情円を用いて話し合う様子

③ 第5学年 学級活動 「食事のマナーについて知ろう」

	第5学年 学級活動学習指導案	
	平成 年 月 日 () 指導者 (T1) 担任 (T2) 栄養教諭	

1 題材名 食事のマナーについて知ろう

2 指導計画

事前 生活習慣・食生活アンケート調査（平成25年5月実施）

本時 「食事のマナーについて知ろう」

事後 ・給食の時間に声の大きさや話題の内容、時間配分等について声かけを続け、学級で考えた食事のマナーを実践できるように励まし、支援する。

・学級活動の時間に給食の時間に困っていることはないか話し合い、マナーの向上を目指す。

3 食育の視点

① 食事の重要性 仲間との食事や食味のよさは、心を豊かにすることを知ることができる。

② 社会性 協力したりマナーを考えたりすることは相手を思いやることであり、楽しい食事につながることを理解し、会話を楽しみながら気持ちよく会食しようと考えることができる。

4 指導上の立場

(1) 題材について

児童はこれまでに、4月からの給食指導で食事のルールについて学んできた。準備をする時は静かにする、よく噛んで食べる、食器を持って食べる等の指導によってルールが定着してきた。しかし、食事をしている間は静かにする、食後は床や机にごみが残っていないか確認する等のルールを守れている児童とそうでない児童の差が大きい。

ここでは「食事マナーのレベルアップを目指そう」というめあてで学習をしていく。本クラスには食事をしている間は静かにするというルールがあった。その理由として、食事が時間内に終わらない、会話に夢中になってよく噛まずに飲み込む、といったことからである。しかし、一般的な食事マナーでは、適度な声の大きさと相手や周囲を思いやることができれば、会話をしてもよいことになっている。また、会話は楽しい会食のためには必要とされている。そこで、本来の楽しい会食ができるようにするためのよりよいルールにするにはどうしたらよいかを自分たちで考え、レベルアップさせていきたい。

(2) 児童について

本学級の児童は、まじめにこつこつと努力する児童が多く、何事にも丁寧に取り組むことができる。しかし、約束事や学級のルールをしっかりと守ることができる児童が多い一方で、守れずに自分勝手なことをする児童もいる。また、ルールを守らない児童に対して注意をして正そうとするよりも、一緒になって流されてしまったり、見て見ぬふりをしてしまったりすることが多い。

今年度のアンケートでは、家庭での食事の様子について、朝食を家族の誰かと一緒にとっている児童が22人、夕食を家族の誰かと一緒にとっている児童が29人であった。また、食事のマナーについて家族に気を付けるように言われていることでは、「食べる前の手洗い」が21人、「食べるときのあいさつ」が20人、「はしの持ち方」が19人、「食器のおき方」が9人、「食べるときの姿勢」が19人、「好き嫌いをなく食べること」が18人、「残さず食べること」が19人であった。これらのことから、今後の生活の中で多くの人と食事をともにする楽しさや、食事の基本的なマナーの定着が必要であると考えられる。

(3) 指導について

本単元では映像を視聴することで、自分たちの食事の様子を客観的に見ることができるようにする。特に、口に食べ物が入ったまま会話していることや、思ったよりも大きな声で話していること等、映像でないと感じにくい部分に注目させたい。また、班で話し合い活動をする中で友だちとの対話を通して、自分だけでは思いつかない新しい意見に気づいたり、自分の意見を認められたりするという経験をつまませていきたい。

また、本校の研究主題「心はずませ 進んで学ぶ子の育成」～こころ・からだ・なかま を大切にする子を育みながら～ を受けて、心がはずむ学習づくりに取り組んでいきたい。

① 対話を取り入れた学習づくり

食事の時間をよりよいものにするためにはどのようなルールが必要かを考えさせ、話し合い活動を通して、友達の考え方を取り入れ、新しい考え方に気づかせて考えを深めさせたい。栄養教諭から食事の一般的なマナーを聞くことで、食事のマナーに新たな視点をもたせる。

② 言語活動の充実

本時で取り上げた食事のマナーに関する問題について、自分の考えや体験を自分の言葉でまとめ、発表し合うことで解決につなげていく。

③ 学習の連続性

本時の授業後にも児童の意識や意欲を持続させるために、本時の最後で5年2組の食事のルールを考えてまとめさせる。そうすることで、自分たちで考えたことに責任をもち、継続的に取り組もうという気持ちをもたせる。

5 授業を見ていただく視点

- ・ 自分たちのこととして考えることで対話がうまれ、子どもたちの心はずむ学習につながったか。
- ・ 自分たちの学級ルールを作ることが、子どもたちの意欲を持続することにつながったか。

6 本時案

ねらい	ランチルームでの会話のマナーについてふりかえり、周囲の状況に気づき、マナーを守った食事をしていこうとする意欲をもつことができる。		
学習活動	指導・支援上の配慮事項		評価の観点と方法
1 食事の映像を見て、本時のめあてをもつ。	○ 現在の食事の様子を映像で見て4月と現状を比べることで、自分たちが守れるようになったことと、守れていないことを客観的にみることができるようにする。(T1)		
食事マナーのレベルアップを目指そう。			
2 食事中に会話をするための良い点と問題点を考え、班で発表する。	○ 食堂での食事の約束を思い出させ、今の状態と比べやすくする。(T1) ・食事中、準備中は静かにする ・食堂では走らない ・食器をもって姿勢よく、よく噛んで食べる ・食事が終わったら身の回りの掃除をして帰る		
3 問題を改善するためにはどうしたらいいのかを班で考え意見交換をする。	○ 食事のマナーについて話をすることで、今までの自分たちの食事の約束について疑問をもつことができるようにする。(T2) ○ 食事の約束に関するルールを見直して考えていくようアドバイスすることで、めあてにつなげる。(T1) ○ 付箋を使って良い点と問題点を色分けして書き出させ、班で意見を整理させることで視覚的にも分かりやすくする。 ○ 今までは食事している間は静かにしていたが、会話の機会を取り入れることで楽しい食事ができることにも注目させる。(T1)		○ 付箋を使って、食事のマナーについてふりかえることができたか [関心・意欲・態度] (付箋)
	〈良い点〉 ・楽しい ・お互いのことが分かる ・食材についての話	〈問題点〉 ・時間に間に合わない ・食べながら話す汚い ・声が大きくなる	

<p>4 新たな食事ルールをまとめる。</p>	<p>○ 良い点と悪い点を比較しながら、問題点を改善するためにはどうしたらよいかを考えることで、よりよいルール作りができるようにする。(T1)</p> <p>○ 食事中的会話を楽しむ中でも、人を思いやる気持ちが必要であることに気づかせる。(T1)</p> <p>○ クラスの食事ルールを自分たちで考えることで、今後もルールを守っていこうという意欲をもつことができるようにする。(T1)</p>	<p>○ 付箋を見てワークシートを記入し、食事のマナーをよりよくしようとす意欲をもつことができたか [関心・意欲・態度] (付箋、ワークシート)</p>
-------------------------	--	--

【成果と課題】

本時では、児童たち自身で新ルールを決めることができることや、ルールを決めるための話し合い活動の中で意見を伝えたり認められたりすることが、研究主題である心はずむ瞬間につながると考えた。

導入では自分たちの食事風景を見せたが、自分たちが映っているということに関心をもち、食事マナーに注目させることができなかつた。参観者から「1度の視聴では児童の関心をひいたが、マナーを意識することができていなかったので、再度視聴させる方法もあったのではないか。」という意見があった。また、児童の意見を受け止めきれず、教師が授業の流れを操作し、限定的な意見しか引き出せなかつたことも反省点としてあげられる。

栄養教諭から話を聞くことは、児童にとって新鮮でマナーについて真剣に考えるきっかけになった。T1とT2が打ち合わせを重ね、お互いの役割を果たすことができた。(図8)参観者から「班でルールを考えている時の児童の表情が明るく、一番心はずむ瞬間だった。この時間を十分に確保するとよい。」という意見があった。(図9)

今後は、児童に学習意欲をもたせ活発な意見交換を促すよう導入方法を検討していきたい。学級においては、児童の意見をつなげていくことを継続して一体感のあるクラスにしていきたいと考える。



図8 食事マナーについて発表



図9 付箋を用いて話し合う児童

④ 第5学年社会科 「私たちの食生活と食料生産」

第5学年 社会科 学習指導案

平成 年 月 日 () 指導者

1 単元名 私たちの食生活と食料生産 ～これからの食料生産～ (日本文教出版 5年上)

2 単元の目標

- ・我が国のおもな食料の輸入先や食料の自給率、食料輸入をめぐる問題から、我が国の食料生産について関心を持つことができる。〔社会的事象への関心・意欲・態度〕
- ・我が国の食料生産について、地図や統計等の各種の基礎的資料を効果的に活用し、調べたことを表現することができる。〔観察・資料活用の技能〕
- ・我が国のおもな食料の輸入先や食料の自給率、食料輸入をめぐる問題について、調べたことや考えたことを適切に表現することができる。〔社会的な思考・判断・表現〕
- ・我が国の食料生産について、食料の中には輸入しているものがあることが分かり、それらが国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解できる。〔社会的事象についての知識・理解〕

3 指導と評価の計画 (全5時間)

時	学習内容	評価					
		関	技	思	知	評価基準	評価方法
1	身近な食物の食料自給率から、我が国の食料生産や食料輸入に関心をもつ。	○				・我が国の食料自給率や食料生産の現状に関心をもっている。	発言 ノート 記述
2	資料を読み取り、外国から食料を輸入することのメリットを調べる。		○		○	・食料を輸入することのメリットを、資料から読み取っている。	ノート 記述
3	資料を読み取り、国内産の食料を食べることのメリットを調べる。		○		○	・国内産の食料を食べることのメリットを、資料から読み取っている。	ノート 記述
4	これからの食料確保について自分の立場を明らかにして考えをまとめ、話し合う。(本時)			○		・食料確保についての自分の立場や考えを明らかにし、発言している。 ・話し合い後、自分の考えを文章で書いている。	発言 ワーク シート 記述
5	これからの国内での食料生産について考え、それに関する人々の努力や取り組みについて調べる。		○			・我が国の食料生産を守り、活発にするための取り組みについて理解している。	ワーク シート 記述

4 食育の視点

- ① 食品を選択する能力 正しい知識や情報に基づいて、食物の品質および安全性等について、自ら判断できる能力を身につける。
- ② 社会性 自分たちの食生活を振り返り、環境や資源に配慮した食生活を実践しようとする。

5 指導上の立場

(1) 単元について

大単元「私たちの食生活と食料生産」ではこれまでに、「米作りのさかんな地域」として秋田県横手盆地を、「水産業のさかんな地域」として長崎県松浦町を取り上げて学習している。本単元「これからの食料生産」では、食料自給率の低下や食料輸入をめぐる問題について学習する。第2・3時では、外国産・国産品を食べるメリットについて学習する。本時では今後の食料生産のあり方について、児童が自分なりの考えを深めることができるようにしたい。

(2) 児童について

本学級は、社会科の学習において、色々な事象に興味をもち、与えられた課題にまじめに取り組む児童が多い。資料から分かる情報をまとめて書いたり、話したりすることができる児童も多く見られる。しかし、資料から読み取った情報をもとに、その理由を類推するなど考えを深め、自信を持って自分の言葉で周りに伝えることができる児童は少ない。

(3) 指導について

本校の研究主題「心はずませ 進んで学ぶ子の育成」～こころ・からだ・なかまを大切にする子を育みながら～を受けて、第5学年では以下の3点に重点を置き、心弾む学習づくりに取り組んでいきたいと考える。

① 対話を取り入れた学習づくり

本時ではゲストティーチャーによるインタビューVTRを活用する。国産の食品のよさについてはJA職員の方に、外国産の食品のよさについては、岡山市中央卸売市場の方にインタビューをし、実際に食品を扱う方の生の意見を知ることができるようにする。VTRを見ることを通して、話し合いがより活発なものになると考える。これからの食料生産について、話し合いを通じて、個人がもっている意見をより広く深いものにしたい。

② 言語活動の充実

本時では、自分の立場を明らかにして話し合いを進めていく。そのために、自分の立場とその強みについて、事前にワークシートに記入しておく。これまでに授業で活用した資料や、新たに児童自身が用意してきた資料について、自分の解釈を加えて話すことができるようにしたい。

③ 学習の連続性

第3時までに、国産・外国産の食品がもつメリットについて、資料の読み取りを通して理解できるようにする。そのために、資料から情報を得るために注目すべきポイントを、単元全体を通して指導していきたい。内容について深く理解することで、自分の意見を明確にして話し合いができるようにしたい。

6 授業を見ていただく視点

- ・ 対話を通して、これからの食料生産に対する自分の意見を広げ、深めることができたか。

7 本時案 (第4時)

ねらい	国産・外国産の食品を食べるよさについて話し合い、これからの食料生産・消費について自分の考えをもつことができる。	
学習活動	指導・支援上の配慮事項	評価の観点と方法
1 前時を振り返り、本時のめあてをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの学習で、国産・外国産のもの、どちらにもそれを食べるメリットがあったことを振り返る。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> これからの食料の確保について話し合おう </div>		
2 小グループで意見を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 色カードを持って話すことで、どちらの立場かが分かりやすいようにする。 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 赤：国産の食品を多く取り入れるのがよい。 白：外国産の食品を多く取り入れるのがよい。 </div>	
3 全体での話し合いを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ意見の友達、違う意見の友達と、少人数のグループで交流する時間を設けることで、自分の意見に自信を持って発言できるようにする。 ○ 双方のメリットについて主張するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べたことや資料をもとに、自分の考えを話すことができる。〔社会的な思考・判断・表現〕(発言)

<p>4 本時の振り返りをする。</p>	<p>○ 話し合いの途中でインタビューVTR を見せることで、より自分たちの考えを深めたり、相手側への見方を広げたりできるようにする。</p> <p>JAの方 国産品・国内の農業のよさについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしく安全な食品にするための工夫や努力 ・作った人や方法が分かる安心感 <p>卸売市場の方 輸入することのよさについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・供給できる時期の違い ・価格の安さ ・食品の種類が多さ <p>○ 書くことが苦手な児童も自分の意見を書くことができるよう、振り返りの視点を与える。</p> <p>〔・話し合いを終えたあとの、自分の意見 ・自分の考えを揺るがすきっかけとなった友達の意見〕</p>	<p>○ 話し合いを通して考えたことを生かしながら、これからの食料確保について自分の意見を書くことができる。 〔社会的な思考・判断・表現〕 (ワークシート)</p>
----------------------	---	--

【成果と課題】

本時は、「国産派」「外国産派」の2つの立場に分かれ、話し合い活動を中心として進めた。

話し合い活動の途中で、岡山中央卸売市場と JA 岡山西早島町支店の方へのインタビューVTR を見せた。(図 10) 食料生産と流通に直接関わる方々の話から、食品をより身近に捉えることができた児童が見られた。子どもたちにとって実際に会ったことのある、身近な方の話だとさらに説得力があったと考えられる。

本時に向けて児童が準備してきたワークシートからは、ほとんどの児童が資料をもとに、根拠を示しながら自分の意見を述べていくことができていた。(図 11)

反省会では、教科書に載っていない資料について他の児童に説明するのは、かなり難しいという意見も頂いたことから、使う資料を絞ったり、資料の内容についての的確に短く説明をする力をつけていったりする必要もあると感じた。

話し合いの最後に、国産と輸入それぞれのよさをキーワードで表す活動を取り入れたことで、国産は「安心」輸入品は「便利」「激安」等というキーワードが導き出され、双方のよさがどの子にも伝わった瞬間だった。(図 12)

話し合いを終えて、最初の意見と変容が見られた。「どちらでもない」を選択した児童は、双方のよさについて決めかね、悩んでいたようだった。

また、これまで国産と輸入を気にして食品を選んだことのなかった児童から「初めてそんなことを考えた」という意見が出た。本単元の学習をきっかけに、自分たちの食生活と食品の選択方法について考え、自主学习に取り組んだ児童もいた。



図 10 インタビューを視聴

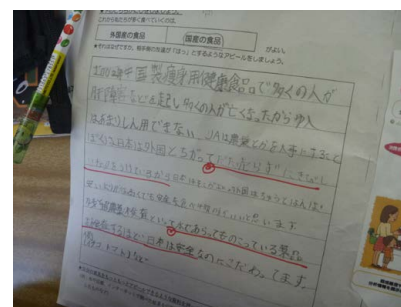


図 11 児童のワークシート



図 12 班での話し合い

⑤ 第5学年家庭科 「元気な毎日と食べ物」

	第5学年 家庭科 学習指導案	
	平成 年 月 日 ()	
	指導者 (T1) 担任 (GT) 栄養委員	

1 単元名 元気な毎日と食べ物

2 単元の見どころ

- ・手順を考えてごはんのみそしるの調理計画を立てることができるようにする。(技能)
- ・ごはんのみそしるに関心を持ち、調理することができる。(技能・知識)
- ・毎日の食事や料理に使われている食品に関心をもつことができるようにする。(関心)
- ・食品の栄養的特徴や体内での主な働きがわかり、食事をバランスよくとることができるようにする。(知識)
- ・ごはんのみそしるの作り方を考えたり、自分なりに工夫したりすることができるようにする。(創意工夫)

3 指導と評価の計画 (全9時間)

次	学習内容 (時数)	評価					
		関	創	技	知	評価基準	評価方法
1	給食の献立をもとに、主食・主菜・副菜という食事の基本形態を知り、毎日の食事はこれを組み合わせて食べていることを知る。(1時間)	○			○	・バランスのよい食事になるように食品を組み合わせてとろうとしている。 ・主食・主菜・副菜という食事の基本形態がわかり、その組み合わせによっていろいろな食品がとれ、バランスのよい食事になることがわかる。	ワークシートへの記述
2	1 おいしいごはんの炊き方や、みそしるの作り方について考える。(2時間)	○			○	・米やごはんに関心を持ち、おいしいごはんの炊き方を考えようとしている。 ・だしの種類について興味をもつことができる。	ワークシートへの記述
	2 栄養バランスを考えたみそしるの作り方について考える。(1時間) (本時)	○	○		○	・みそしるに関心を持ち、作り方を考えたり、実の取り合わせを工夫したりしている。 ・みそしるの作り方がわかる。	ワークシートへの記述
	3 ごはんのみそしるを作る。(2時間)	○		○		・関心を持ち、協力して調理をしようとしている。 ・調理器具を安全に使って、ごはんのみそしるを作ることができる。	調理実習時の観察
3	食品の体内での主な働きを知り、バランスのよい食事の取り方について考える。(1時間)	○			○	・毎日の食事に関心を持ち、自分の食事を見直そうとしている。 ・食品の栄養的特徴や体内での主な働きがわかる。 ・食品を体内での働きにより3つのグループに分けることができる。	ワークシートへの記述
4	学習のまとめをする。(2時間)		○			・学習内容を理解できている。 ・家庭で作ろうとする意欲がある。	テスト・ワークシートへの記述

4 食育の視点

- ① 食事の重要性 食事は生きていく上で欠かすことができない大切なものであることを理解する。
- ② 心身の健康 栄養バランスのよい食事は、心身の成長の基本であることを理解する。

5 指導上の立場

(1) 単元について

本単元では、日本の伝統的な「ごはんのみそしる」の調理を通じて、調理操作等の基礎的技能を身につけ、日常生活で簡単な調理ができるようにする。また、日常の食事に関心を持ち、様々な食品を食べていることや五大栄養素の特徴を知り、主食・主菜・副菜をそろえて食べれば栄養のバランスがとれるという目安がもてるようにし、調和のよい食事のとり方がわかるようにする。

本町では、平成18年度に「健康はつらつ早島21」を策定して運用している。この計画の中で学童・思春期は「食材や食品の選び方、食べ物の栄養について学ぶ」や「調理体験をする」等が掲げられている。

(2) 児童について

5年生の児童は、前期に簡単な野菜料理について学習を行い、野菜の扱い方、調理器具やガスコンロの安全な使い方を学習している。5月に行ったアンケート調査結果をみると、朝食内容は、主食・主菜・副菜がそろった定食型の食事は22.2%、主食とおかずを組み合わせた軽食型は25.6%、主食のみの主食型が44.4%、主食を食べていないものは4.3%、無回答は3.4%であった。また、みそしるを食べている児童は少ない。

(3) 指導について

本校の研究主題「心はずませ 進んで学ぶ子の育成」

～こころ・からだ・なかまを大切にすることを育みながら～

を受けて、第5学年では以下の3点に重点を置き、心はずむ学習づくりに取り組んでいきたいと考える。

① 対話を取り入れた学習づくり

食の多様性を考慮しつつ、まずは、自分自身の食についてふりかえる自分との対話をもとに、他者との違いを確認する他者との対話を大切にしたい。そのために、ゲストティチャーを招き、栄養や調理のアドバイスをもらい意外なアイデアにつながる楽しさも感じさせたい。

② 言語活動の充実

実習や観察等の実践的・体験的な活動を行い、自分の生活に関する課題を見つけたり、解決したりする学習体験を通じて、思考したこと、話し合ったことをまとめる。また、活用の仕方を考える。

③ 学習の連続性

日本の伝統的な食事のよさに気づかせることで、これからの自分の生活にも積極的に取り入れようとする意識を高め、「わが家のみそしる」にもなりうるものにつなげていきたい。

「ごはんのみそしる」は日本の伝統的な食事形態である。しかし、食生活の多様化により主食の米は消費量が減り、毎日みそしるを作る家庭も少なくなっている。

この題材では、様々な料理に合うごはんのよさを知らせ、みそと実の取り合わせを工夫することで、栄養バランスのよい副菜になることに気付かせ、ごはんのみそしるを自分で作ることができるように指導し、日常生活に取り入れようとする意識を高めたい。また、学校給食に注目しながら、日常の食事のとり方や主食・主菜・副菜のそろった栄養バランスのよい食事を理解させたい。特に本時では、児童に日本の伝統的な食事のよさを気づかせ、調理についての関心を高めさせる手立てとして、地域で活動する栄養委員をゲストティーチャーとして招き、調理や栄養についてのアドバイスをもらうことで、食に関する指導の輪を広げたいと考えている。

6 授業を見ていただく視点

- ・ 話し合い活動をすることで、自分の意見や他者の意見を比べながら、心はずむ学習ができたか。
- ・ 五大栄養素を意識しながら、みそしるの実を考え、調理する意欲につながったか。

7 本時案(第2次 第3時)

ねらい	みそしるのよさを知り、栄養バランスのよいみそしるの実について考えることができる。	
学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 前時の学習内容を振り返り、本時の学習内容を知る。	○ 本時の学習が実習につながることを伝え、児童の意欲を喚起する。(T1)	

栄養たっぷりみそしるを考えよう		
2 手軽に手に入るみそしるの実を見せ、3か～4種類の材料を選ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 給食のみそしるを見せ、見た目や味、旬の食材を使用する等の工夫できる点を伝える。(GT) <ul style="list-style-type: none"> ① 栄養バランス ② 地場産物 ③ いろいろ ○ 意識することがポイントになることを知らせる。 ○ 机間指導を行い、改善方法が見つからない班には、アドバイスをする。(T1・GT) 	示された食材をもとに、栄養や旬を意識しながら組み合わせを考え、班で交流しているか。(創意工夫)
3 選んだ食材を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 選んだ食材について話し合い、気をつけたポイントを発表させることで栄養たっぷりのみそしるになるようにさせる。(T1) ○ 五大栄養素を意識して、食材を選んでいるか確認させ、改善のポイントを知らせる。(T1・GT) 	
4 改善点を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養バランス等の工夫した点やよくなった点をほめる。(GT) 	
5 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調理の手順を考えながら、実際に考えたみそしるを作ることを伝える。(T1) 	みそしるや食品の組み合わせに関心をもてたか。(関心)

【成果と課題】

本時は、ごはんのみそしるに関心を持ち、調理することを目標とした。また、食品の栄養的な特徴や体内での主な働きを理解し、食事をバランスよくとることができるようにすること。さらに、自分なりに工夫して日常生活に活かす児童の継続的な活動もねらった。しかし、日本の伝統的な食文化は変化しつつあり、だしの取り方やみそしるの実に効果的な取り合わせがあること等を知っている児童は非常に少ない実態があったため、この題材では以下のことに留意して実践を試みた。

- ① 様々な料理に合うごはんのよさを知らせ、みそしるの実の取り合わせを工夫することで、栄養バランスのよい副菜になることを気づかせ、自分で作ることができるように指導し、日常生活に取り入れようとする意識の高揚を図ること。
- ② 栄養委員をゲストティーチャーとして招き、調理や栄養についてのアドバイスをもらい、食に関する指導の輪を広げること。

〈成果〉

児童にとって、ゲストティーチャーを招くことは、通常の授業とは違う雰囲気を経験するうえでも効果的であった。(図14・15) また、教科書にない日本の食文化に関する話を聞くことができ、興味深く考えることができたようだ。

〈課題〉

日常生活の中でも、継続的に意識をもちつづけるためには、日頃から学校給食等にも注目しながら、食事の取り方や栄養バランスにもしっかりと目をむけさせていく必要がある。



図14 ゲストティーチャーからアドバイスを聞く児童



図15 アドバイスをもとに班で話し合う児童

(3) ICTを活用した家庭・地域への啓発及び連携した食に関する指導の取組

家庭において子どもたちへの食に関する指導が困難であったり、保護者が望ましい食生活や生活習慣を実践できていなかったりする場合がある。そこで、地域の協力を得ながら、家庭の食生活が向上することを目指す。食に関する関心を高めるために、子どもたちの生活状況や食習慣の実態をアンケート調査で把握し、課題を明らかにした。また、情報を共有することが必要である。具体的な情報発信方法として、学校だよりや食育だより等の配布、ホームページによる啓発活動を充実させることにした。

ア ホームページ (図16)



図 16 小学校ホームページと
配布資料・ブログ

イ 親子料理教室

調理の楽しさを知り、栄養バランスのよい食事内容を学ぶことを目的とした料理教室をPTA主催で開催した。

料理は、子どもたちが苦手な豆や野菜を食べることができる、給食でも好評なものを取り入れた。

子どもは「家族に作ってあげたい」や「自分一人でも作ることができる」「もっと他の料理も知りたい」、保護者は「これを機会に手伝いをさせたい」「一緒に料理を作る楽しさを味わうことができた」等の感想があった。(図 17)

このことから、実習を行うことは、食に関する関心や意欲を高めるだけでなく、日常生活での実践化に繋がる可能性が高くなることが示唆された。



図 17 親子で料理に取り組む様子

ウ レシピ集の作成

学校で学習した内容を家庭で実践するために、小学校第6学年を対象にしたレシピ集を作成した。料理は、主食・主菜・副菜・しる物・その他の5つに分類して掲載し、栄養バランスを容易に確認できるランチョンマットを作成して同時に配布することにした。(図18)



図18 レシピ集(一部抜粋)・ランチョンマット

レシピ集の作成には、地域活動ボランティアの栄養委員の方と料理の試作や写真撮影をしたり、試食をしながら内容の検討を行ったりした。多くの方の意見を取り入れることで内容が深まり、はじめて料理を作る子どもにもわかりやすい資料にすることができた。

レシピ集は、栄養委員等に配布して、地域で行う食育や料理教室の資料として今後も活用していただく予定である。(図19)



図19 レシピ集の試作

エ アレルギー講習会

学校給食でアレルギー疾患の対応に取り組む中、食物アレルギーの正しい理解とアナフィラキシー発症時の適切な対応が求められている。

そこで、適切な対応を行うための基本的な知識をもち、エピペンに関する実習体験を行うことが有効であることから、小学校と中学校、幼稚園、保育園の教職員を対象に講習を行った。(図20)

講師に、独立行政法人国立病院機構南岡山医療センター小児科水内秀次先生をお招きし、アレルギーの概要についての講義とエピペンの使用方法及び実習をしていただいた。さらに、学校での対応方法やエピペンを使用するタイミング、保管方法等の質問にも、回答していただき、有意義な会となった。



図20 アレルギー講習会